

景観維持・保全のための木造建築物の温熱環境の改善及び耐震性の向上等による利活用促進方策の検討

<調査概要>

■調査実施地域：北海道芽室町

■調査実施者：めむろ建築・まちづくり研究会

- ・全国各地からの入植者により開拓が進んだ歴史を持つ芽室町では、その当時建てられた歴史的に価値があると思われる木造建造物が利活用されないまま解体される可能性が危惧されている。歴史的背景を踏まえ木造建築物の実態把握調査結果を基に、歴史的価値を評価するための基準を整理するとともに、木造建築物の評価を実施。
- ・歴史的な価値があると評価した木造建築物をモデルとして、建物の外観に配慮しつつ、利活用する上で課題となっていた温熱環境の改善及び耐震性の向上等を図るための改修方法を検討。さらに利活用促進方策について、地域住民と意見交換を行いながら検討し、今後の歴史を活かしたまちづくりへの期待や人材育成等の課題などを明らかにした。

<調査内容>

■建造物の実態把握調査

- ・芽室町の開拓の歴史を調査
- ・富山県・岐阜県からの入植が多い
- ・入植者の住宅の特徴を持つのは概ね築80年以上
- ・12の集落に38棟ある木造建築物の特徴を把握
- ・富山県の伝統構法「枠の内」を発見
- ・建物の外観や内部の特徴を把握（土塗壁・屋根形状・間取り・建具）

■歴史的価値の評価・基準整理

- ・歴史的地域資産について専門家から講義
- ・建物の特徴を価値と認識
- ・ワークショップにより歴史的な価値を抽出

6つの価値の評価基準を整理

- ・特殊性
- ・地域性
- ・文化芸術性
- ・景観性
- ・利用度
- ・思い入れ度

評価したものからモデルを1件抽出

■温熱環境調査・改修方法の検討

- (現状)
- ・一般住宅の17%の断熱性能
 - ・灯油使用料金が年間110万円
 - ・冬期間は室内でも -5°C
- (改修後) ※試算
- ・一般住宅の70%まで断熱性能向上
 - ・灯油使用量を半減
 - ・室温が 3°C 以上上昇

モデル建築物



■耐震性能調査・改修方法の検討

- ・「限界耐力計算法」で耐震性を確認
- ・震度6強の地震で「倒壊しない」
- ・劣化により耐震性能が不足した場合、土塗り壁の補修により耐震性能を確保
- ・床面の補強により歴史的価値を損わず耐震性能を確保できる
- ・屋根が軽いため耐震上有利

■利活用方策の検討

- ・ワークショップにより歴史的建造物に求める機能は「商業的機能」と「飲食店機能」
- ・利活用の具体例として「地域福祉館」「農家体験住宅」「子育て支援施設」など
- ・町民参加フォーラムを開催し、歴史的建造物の価値を共有
- ・アンケート調査の実施により、多くの町民が歴史を活かしたまちづくりを期待していることがわかった



(次年度への課題)

- ・伝統構法の技術者の育成をどのように図るか検討
- ・改修費用の捻出をどうするか検討（補助制度の活用も含め）